

島津灯ろう製作事業



取組地域：姫城地区

取組年度：令和6年度

事業主体：姫城地区まちづくり協議会

事業費：95,200円（基金活用額 95,000円）

問合せ：☎46-2603

課題・取組の概要

○夏の風物詩となっている「島津灯ろうまつり」だが、都城島津の歴史についてもっと子ども達に触れてもらいたい。

○地域の祭りとして定着しているが、更なる参観者を得たい。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○今回、都城島津に由来する「郷中教育」「庄内地理志」に関し、泉ヶ丘付属中及び都城工業高校に灯ろう制作（作画）を依頼したことで、島津の歴史を探求し、都城の再発見をしてもらうことができた。

歴史

今後の課題・アドバイス等

○もっと多くの人に、都城島津の歴史に興味を持つもらいたい。

○他の学校にも広げられないか。

歴史伝承プレート整備事業



取組地域：志和池地区

取組年度：令和4～6年度

事業主体：志和池地区まちづくり協議会

事業費：1,017,500円（基金活用額 1,017,500円）

問合せ：☎36-0519

課題・取組の概要

- 志和池地区公民館に掲示してあった志和池の地名の由来である「志の和ぐことこの池のごくあれ」のプレートが古くなっていたため、令和4年度に後世に引き継がれるような歴史の伝承プレートとして整備した。
- 令和5年度は、同一のプレートを志和池小、丸野小、志和池中学校にも設置した。
- 令和6年度は、伝承プレートだけでは、名の由来がわかりにくいという意見を受けて、補足説明板を製作し、4か所に設置した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 未来への伝承者となる児童・生徒が在籍する学校に設置したことにより、志和池の地名の由来を知らない人が減り、確実に後世に引き継がれることが期待できる。
- 各施設への設置について、行政財産目的外使用許可はなじまないことから、プレートは寄贈することとなった。

歴史

今後の課題・アドバイス等

- プレートは、ステンレス製で半永久的に使えるため、更新の必要はない。

志和池古墳環境整備事業



取組地域：志和池地区

取組年度：令和6年度

事業主体：志和池地区まちづくり協議会

事業費：488,400円（基金活用額 465,659円）

問合せ：☎36-0519

課題・取組の概要

- 志和池の宝の一つであり、県指定の「志和池古墳」について、地元の管理が行き届かずにな竹が繁茂していたため、周辺への倒竹等の被害が発生していた。
- 管理を容易にするため、竹伐採、搬出、処分を委託により行った。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 搬出及び処分については、大和フロンティアの協力により無償でできたため、事業費を半分程度に圧縮できた。
- 倒竹等の被害が無くなり、管理も容易にできるようになった。

歴史

今後の課題・アドバイス等

- 地元で定期的に竹伐採をしながら、維持管理していく必要がある。
- 志和池の宝として後世に継承されていくために、認知度アップを図る取り組みや整備が必要である。

菫子野地下式横穴墓群看板設置事業



道路側（大人向け）



校庭側（児童向け）

取組地域：庄内地区

取組年度：令和4年度

事業主体：庄内地区まちづくり協議会

事業費：283,800円（基金活用額 283,000円）

問合せ：☎37-3488

課題・取組の概要

- 庄内地区で発掘調査された古墳時代の遺跡は、菫子野小学校南側の菫子野地下式横穴墓群に集中しており、現在までに20基が見つかり19基が調査され、当時の貴重な副葬品が見つかっている。
- 現在では調査が終わり、埋め戻されているが、菫子野小学校の校庭に看板を設置し、写真や地図などで発掘当時の様子が分かるようにし、地域の人や児童生徒に伝えていくことを目的とした。

成果・事業の特徴・工夫したこと

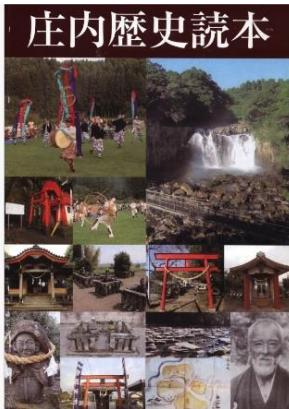
- 菫子野小学校へは看板設置について、了承を得た上で、校庭側は児童向け、道路側は一般向けの説明内容とし、都城市教育委員会文化財課に文面作成を依頼、設置した。

歴史

今後の課題・アドバイス等

- 看板設置により、庄内の遺跡について児童をはじめとし、多くの方に知ってもらい、庄内の歴史に対する意識を高めていく。

庄内歴史読本作製事業



庄内の歴史

地名「庄内」の誕生と移り変わり

私たちは現在庄内地区に住んでいます。庄内地区とは、葉子野町・乙房町・閲之尾町・庄内町の範囲をいいます。しかし、「庄内地区」の地名は、これまでに長い歴史の中でいろいろな移り変わりがありました。明治時代に入る迄は、「安永村」といって、その中に「南川内村・北前川内村・西嶽村・中霧島村」が入っていました。当時の「安永村」には現在の庄内・西岳・中霧島が入っていました。また、その頃、現在の閲之尾町は西嶽村の中に含まれていました。江戸時代の頃は「庄内」という、都城盆地全体をいっていました。

明治3年（1870）正月に都城が分割されて、上庄内・下庄内・三俣の三ヶ郷が設置されます。そして同じ年の3月に安永村が上庄内郷に編入します。その時、西嶽村の一部であつた閲之尾と川崎を安永村に入れ、これに南前川内と北前川内を合わせて一つの村としました。この時、中霧島村は別になっています。

明治5年の廢藩置県によって、上庄内郷を「庄内郷」、下庄内郷を「都城」としました。ここで初めて「庄内郷」ができました。そして、明治21年（1888）の全国的に行われた「市制町村制」によって「庄内村」という「庄内」の名をつけた行政村が誕生しました。この

取組地域：庄内地区

取組年度：令和5年度

事業主体：庄内地区まちづくり協議会

事業費：1,100,000円（基金活用額 1,100,000円）

問合せ：☎37-3488

課題・取組の概要

- 第1期活性化事業（平成28年度）で、地区内の史跡巡りを行っている庄内中学校1年生向けに、歴史や文化についてまとめられた冊子を1,000部作成し、事前に配布していた。
- 今回、初版作製した読本の配布終了が見込まれるため、内容を一部修正し1,000冊の増刷を行う。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 限られた時間での地域巡見学習だが、事前に配布された読本で歴史や文化について学ぶことで、郷土の歴史への理解を深め、故郷を愛し、誇りに思う気持ちが育まれてきている。
- 毎年、生徒一人ひとりが見聞をまとめた「庄内歴史新聞」を作成し、提供いただいている。
- 地域の史跡を大事にする気持ちが芽生え、地域貢献活動として史跡の清掃活動に取り組むなどの行動につながっている。

今後の課題・アドバイス等

- 第1期の初版作製では9名の委員で編集方針の決定、資料集めや写真撮影、文章執筆、編集会議、校正など2年間の時間がかかった。
- 史跡や民俗芸能など時間と共に状況が変化があるので注意が必要

昔を語る動画作製事業



取組地域：庄内地区

取組年度：令和5年度

事業主体：庄内地区まちづくり協議会

事業費：930,000円（基金活用額 930,000円）

問合せ：☎37-3488

課題・取組の概要

○庄内地区は都城島津家関係の史跡が多く残り、その歴史は地域住民に脈々と語り継がれ、郷土誌「庄内」の貴重な資料となっている。その昔を知る方々に生きた言葉で語ってもらい、それを映像に記録として残し後世に伝えていく。インタビューし、動画を撮影し、いくつかのテーマごとに15分～30分程度に編集。DVD化し、YouTubeチャンネルに登録し、誰でも閲覧できるようにする。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○テーマ毎にインタビュー形式で語ってもらった。郷土誌「庄内」の編集に携わった方々なので庄内地区の歴史に関する造詣が深く、貴重なお話を聞くことができた。また太平洋戦争の戦前・戦後の生活がどのようなものだったのかも語ってもらった。

○地元のフリーの動画制作者に委託し、撮影や編集打合せなどの移動経費の見積り縮減につながった。

○YouTubeチャンネルの管理はまちづくり協議会で行う。

今後の課題・アドバイス等

○紙媒体では伝えることのできない方言や語り口などを動画で残すことができる。

六ヶ村城跡地周辺整備事業



取組地域：中郷地区

取組年度：令和5年度

事業主体：中郷地区まちづくり協議会

事業費：700,986円（基金活用額 693,000円）

問合せ：☎39-0713

課題・取組の概要

○展望所周辺の樹木が成長したことにより、眺望が阻害されている。

○眺望を良くするために雑木等の伐採除去を行った。

成果・事業の特徴・工夫したこと

○伐採除去により霧島山と市内が一望できるまで眺望が回復し、今後は来訪者が増えることが期待される。

○また伐採により乗り入れ道に日が差すようになり、これまでの展望所の薄暗いイメージが払拭された。

歴史

今後の課題・アドバイス等

○展望所の手すり・床等に腐食が出始めているため、定期的な点検を実施する必要がある。

○周辺整備事業の継続が不可欠

山田地区史跡環境美化事業



取組地域：山田地区

取組年度：令和3～5年度

事業主体：山田地区まちづくり協議会

事業費：581,628円（基金活用額 581,628円）

問合せ：☎64-1121

課題・取組の概要

- 史跡周辺の管理が行き届いていない状況や雑草の繁茂により、史跡へ容易にたどり着けないなど史跡周辺の環境美化の必要性がある。
- 史跡の環境美化活動を行い、良好な状態で次世代に引き継ぐとともに、多くの方に山田の歴史に触れてもらう。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- まちづくり協議会が主体となり、山田地区内にある史跡周辺の定期的な草刈りや清掃を行う。
- 階段落ち葉除去、危険倒木の除去を行うことで、史跡に来られる方の安全性を確保した。
- 作業を行う日程調整が厳しく、少人数の参加者になり、清掃に時間を要した。

歴史

今後の課題・アドバイス等

- 日程調整を早い段階から進め、参加者の増加を図る。
- 地区内にある史跡周辺の定期的な草刈りや清掃を行う。

石川理紀之助交流事業



取組地域：山田地区

取組年度：令和3～6年度

事業主体：山田地域づくり推進協議会

事業費：2,910,320円（基金活用額 2,603,490円）

問合せ：☎64-2105

課題・取組の概要

- 石川理紀之助は明治期に秋田から谷頭村（現在の都城市山田町谷頭）に赴き、農業や生活の指導をした山田町の恩人である。
- この「石川理紀之助の考え方」を教育に生かすため、山田中学校の生徒や地域の関係者が、石川理紀之助の地元である秋田県潟上市の中学校区の生徒や地域の人たちと、隔年毎に訪問の受入れを実施し、交流を行った。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 交流を通して、自分の住んでいる地域への関心を高め、郷土愛や地域での自分の役割を考えるきっかけとなった。
- 生徒が参加するため、実施時期が夏休み等の期間に限定されることや交流内容等、訪問先との細やかな調整が必要であった。

歴史

今後の課題・アドバイス等

- 平成26年から事業を開始しているが、今後の事業継続に当たっては、一部自主財源の確保も視野に入れながら、実施方法等の検討を行う時期に来ている。
- 遠隔地の為、リモート会議やWebオンライン会議の活用に取り組む。

山田地区ふるさと探訪マップ発行事業



取組地域：山田地区

取組年度：令和6年度

事業主体：山田地区まちづくり協議会

事業費：452,002円（基金活用額 451,000円）

問合せ：☎64-1121

課題・取組の概要

- 第1版頒布から3年が経過し、住民に本探訪マップの周知が図られたが、地域内外より追加掲載の要望を受けた史跡等もある。前回は折込1面で広げて行動しにくいとの声も。
- 地域住民がふるさとの「歴史と文化」を学ぶことでふるさとに愛着を持つとともに、山田出身者や来訪者に頒布し、山田地区の魅力を広く発信する。
- 令和6年度に探訪マップを6,000部発行 A4サイズ カラー冊子式（全24ページ）

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 以下のように様々な用途に使用する予定である。
 - ・山田地区内全世帯・地区内集客施設等配布
 - ・地区内外の児童生徒の地域学習等での配布活用
 - ・地区外、県外移住者等への頒布
 - ・まちづくり協議会事業イベントでの活用
- 自公連、掲載関係者、小学校、外有識者、地域住民など幅広く情報収集を行った。

歴史

今後の課題・アドバイス等

- 掲載内容が多くなり、当初の予算では6,000部作成が厳しくなり、まち協予算を充てた。
- 適正な在庫管理と不足時の増刷予算の確保が必要になる。

木場城史跡公園環境整備事業



取組地域：高崎地区

取組年度：令和5年度

事業主体：木場城活性化委員会

事業費：840,000円（基金活用額 840,000円）

問合せ：☎62-1114

課題・取組の概要

- 木場城山頂にある木造の展望台は、老朽化が進み、使用できない状態にあった。
- 史跡公園となっている木場城跡の観光資源としての価値を高めるために、展望台の改修工事を実施して、利用可能な状態に復元する必要があった。
- 腐食した木材部分の解体及び建築工事、部材の塗装工事（防腐処理）、屋根瓦の葺き替え工事を実施

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 展望台がある頂上には、車や重機が登れないため、資材の運搬を人力作業で行った。
- 地域の幼稚園や小学校が遠足等で訪れることがあり、展望台の利用ができるようになったことで、360度展望の素晴らしい景色を展望できるようになった。
- 施設を快適に利用できるように、木場城活性化委員会が草刈等の作業を毎年実施

歴史

今後の課題・アドバイス等

- 利用者を増やすために、施設の認知度アップに取り組む必要がある。